



サポートブックの 作り方・使い方 ガイド

幼児・低学年用



神戸市

「サポートブックの作り方・使い方ガイド」の作成にあたって

「サポートブック」という言葉を聞かれたことがあるでしょうか？

「サポートブック」は、家族以外の人に関わってもらうときに子どもの様々な情報を知ってもらうためのツールです。

使い慣れると大変便利な道具ですし、子どもの情報を整理すると、これまで気づかなかった一面が見えてきたりもします。しかし、実際に作るとなると「どうしたらいいのかわからない」と戸惑ってしまう方が多いかと思います。

この小冊子は、そのような方々に簡単で具体的な作り方を知ってもらうために作りました。最初は簡単なメモのようなものから始めるのがコツです。一方、記述が詳しすぎると預かる方も読み切れないことがあります。作成委員会メンバーには、ご家族の会を中心に、区役所子育て支援係、保育所・園、学校、児童館など、子どもに関わる機関の方々に加わっていただきました。サポートブックは、すべてを持ち歩く必要はありません。ファイル形式にして、必要に応じて、その一部を使えば良いのです。もちろん成長に合わせて作り変えが必要です。でも古い記録は捨てないでください。後から振り返ると、貴重な発達記録になります。

まず、あれこれ考えずに作ってみましょう。皆でワイワイする作業は楽しいものです。今回は第一版ですので、気づかなかった点や改良点があれば、ぜひご意見をください。

平成 20 年 3 月

神戸大学大学院保健学研究科教授
神戸市サポートブック作成検討委員会委員長

高田 哲

目次

説明編

サポートブックについて／用途別のサポートブック／
サポートブックの書き方

書き方編

本人ファイル①②③／トイレ／パニック／コミュニケーション
子どもに関わる機関からのメッセージ
神戸市サポートブック作成検討委員会名簿

様式編

本人ファイル①②③／一般様式／コミュニケーション様式



サポートブックについて

●サポートブックって何？

サポートブックは、子どもを預かってもらう場合（保育所・園、幼稚園、学校、学童保育、講演会での託児など）、預かる人（支援者）に知っておいてほしい「子どもの情報」（困ったことが起こった場合の対応方法等）をまとめた冊子です。

サポートブックを支援者に渡すことで、初めての場所や初対面の人とでも、子どもが安心して楽しく過ごすための大きな助けになります。



●作るのは誰？

サポートブックを作成・管理するのは、保護者です。また、預かってもらった支援者からの情報を加えることで、保護者と支援者とのコミュニケーション・ツールとしても役に立ちます。



サポートブックの作り方

●どうやって手に入れればいいのか？

このサポートブックの作り方・使い方ガイドと記載様式は、神戸市発達障害者支援センターのホームページからダウンロードして入手することができます。

<http://www.city.kobe.lg.jp/child/grow/network/siryo.html>



用途別のサポートブック = 作成おすすめファイル一覧 =

子どもを預ける機関に応じて、サポートブックの項目を調整しましょう

このサポートブックは、必要ときや場所、目的に応じて、支援者に渡すページを調節できます。

そのために用途や目的に応じて“こんな情報があれば便利”と思われる一覧表を付けました。

子どもの生活スタイルに合わせて、この表を活用していただき、〇〇に行くときはこの組み合わせで、というように工夫してください。

そうすることによって、必要な情報を過不足なく、効率的に伝えることができます。



1, 一時的な預かり（講演会での託児など）のとき

必要な支援の程度が軽いので、保育所などに比べると伝える情報は、かなり少なくなります。

2, 保育所など、日中、定期的に預けるとき

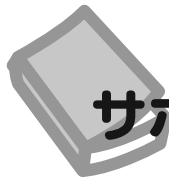
本人が食事をしますから、嫌いな食べ物やアレルギー反応を起こす食べ物、逆に大好きな食べ物といった「食事」に関する項目も必要になります。また、食後には歯みがきタイムがありますから「洗面・歯磨き」項目も大事です。

さらに体操着などに着替える必要のあるときは、どの程度ひとりで行えるかという「きがえ」項目も必要になってきます。

※「○」は、その項目のサポートブックがあると便利と思われる場合。ただし、これが絶対ではなく、支援者や用途に応じて、渡す情報を選択してください。

<用途一覧>

| 項目 | | 用途 | | | | 各項目の参照ページ | |
|-------------------------|----------------------------|------------|---------------|------------|---------------|-----------|-----|
| | | 1 一時預かり | 2 習い事・特別行事 | 3 毎日通う所 | 4 お泊りを含む預り | 書き方編 | 様式編 |
| 1. 本人ファイル① | 個人情報に関するファイル | ○ | ○ | ○ | ○ | P7 | P18 |
| 2. 本人ファイル② | すべての場面で必要な基本ファイル | ○ | ○ | ○ | ○ | P8 | P19 |
| 3. 本人ファイル③ | 場面に応じて提供するファイル | | | ○ | ○ | P9 | P20 |
| 4. トイレ | 大・小の配慮点 | ○ | ○ | ○ | ○ | P10 | P21 |
| 5. 水分補給・おやつ | 好きなもの・嫌いなもの・食べてはいけないもの／配慮点 | ○ | ○ | ○ | ○ | | P21 |
| 6. 食 事 | 好きなもの・嫌いなもの・食べてはいけないもの／配慮点 | | | ○ | ○ | | P21 |
| 7. 外出・移動 | できること／配慮点 | | | ○ | ○ | | P21 |
| 8. コミュニケーション 本人→周囲の人 | 表現手段、本人独特の表現等 | ○ | ○ | ○ | ○ | P12 | P22 |
| 9. コミュニケーション 周囲の人→本人 | 伝達手段、大人からの指示等 | ○ | ○ | ○ | ○ | P13 | P23 |
| 10. パニック | きっかけ／行動／対応 | ○ | ○ | ○ | ○ | P11 | P21 |
| 11. きがえ | できること／配慮点 | ○ | ○ | ○ | ○ | | P21 |
| 12. おふる | できること／配慮点 | | | | ○ | | P21 |
| 13. 洗面・歯磨き | できること／配慮点 | | | ○ | ○ | | P21 |
| 14. 就寝・ねざめ | 状態／配慮点 | ○ | | ○ | ○ | | P21 |



サポートブックの書き方



1, 書けるところから書きましょう

とにかく書けるところから、書き込んでいきましょう。難しく考える必要はありません。子どもが安全で楽しく過ごすために必要だと思われることを、書くようにしましょう。

すぐに思い出せない部分は、空白でもかまいません。後で気づいたり、思い出したりしたときに書き入れるとよいでしょう。

2, 楽しく作りましょう

楽しみながら書いていきましょう。イラストやシール、本人の写真などを使うと、きれいで見やすいものになります。また、作ったファイルは、そのまま市販のクリアフォルダに入れたり、縮小コピーして葉書用のフォルダに入れるなど、持ち運びしやすく見やすい工夫をしてみてください。

3, 「○○できます」という書き方をしましょう

例えば、「座るところがあれば、自分で靴をはけます」と書くと、支援者は何を手伝ったらよいか分かります。

反対に、「△△はできません」という書き方では、支援者は困ります。

4, 成長の記録にも

必要がなくなったページは取り外し、成長の記録として保存しておきましょう。後から振り返ると、子どもが着実に成長していることが分かります。

5, サポートブックのそれぞれの項目の書き方

項目には、本人ファイル①②③／トイレ／水分補給・おやつ／食事／外出・移動／コミュニケーション：本人→周囲の人／コミュニケーション：周囲の人→本人／パニック／きがえ／お風呂／洗面・はみがき／就寝・ねざめ、があります。特に書き方が難しいと思われる「本人ファイル①②③」、「コミュニケーション：本人→周囲の人・周囲の人→本人」、「パニック」、また基本的な項目の見本として「トイレ」について次ページ以降に具体例と書き方を示しています。これら以外の項目も、例を参考にしてみてください（前ページ参照）。

※様式は、本書の様式編からコピーするか、ホームページからダウンロードしてから書き込んで、ファイルなどにとじてお使いください。

※「一般様式」（21ページ）は、「本人ファイル」項目、「コミュニケーション」項目以外の項目を作成する場合にお使いください。

「本人ファイル」は、①個人情報に関するファイル、②すべての場面で必要な基本ファイル、③場面に応じて提供するファイル、の3つから成り立っています。

◆「本人ファイル①」の書き方

(18ページの様式ファイルをコピーして書き込んでください)

<具体例>

本人の基本的な個人情報に関するファイルです。
名前とふりがな、年齢、性別、生年月日と、ふだん多くの人に呼ばれている「呼び名」を書きましょう。

様式 本人ファイル① ……個人情報に関するファイル

平成 年 月 日 作成

| | | | | | | |
|------|------|---|---|---|------|---------|
| ふりがな | こう | べ | は | る | 年 齢 | 性 別 |
| 名前 | 神戸 春 | | | | 5 歳 | 男・女 |
| 呼び名 | はるくん | | | | 生年月日 | ○年○月○日生 |

写 真

本人の住所を書きます。

| | |
|-----|-------------|
| 住 所 | 神戸市中央区橘通××× |
|-----|-------------|

| | | | | | | |
|-----|--------|------|--------|----|----|----------------|
| 電 話 | 第1順位氏名 | 神戸 夏 | 本人との関係 | 母 | 番号 | (000) 000-0000 |
| | 第2順位氏名 | 神戸 秋 | 本人との関係 | 父 | 番号 | (000) 000-0000 |
| | 第3順位氏名 | 神戸 冬 | 本人との関係 | 祖父 | 番号 | (000) 000-0000 |

| | | | | | | |
|-------|-------|-------------|-------|-----|------------------|--|
| 園 学 校 | 園・学校名 | 神戸市立こども幼稚園 | | | | |
| | 学 年 | 年 組 | ぱんだ 組 | 担 任 | 王子 先生 | |
| | 住 所 | 神戸市灘区王子町3-1 | | 電 話 | (000) 000 - 0000 | |

写真は、現在の本人の顔がはっきり分かるものがよいでしょう。

保護者の連絡先を記入します。欄は3つありますが、3つとも書く必要はありません。

所属している幼稚園、保育所、学校などの名前と、担当や担任の先生の名前、そして連絡先を書きましょう。

◆「本人ファイル②」の書き方

(19ページの様式ファイルをコピーして書き込んでください)

<具体例>

様式 本人ファイル② …… すべての場面で必要な基本ファイル

特に配慮のいる状況と、その対応

暗い所をとて怖がります。急に暗くなったりすると、恐怖でパニックになりますので、劇の演出などでも、あらかじめわかっている場合は、すぐに明るい所に移れる場所にして下さい。

走っている自動車を触ろうとすることがありますので、道路を歩くときは支援していただく人が車道側で手をつないで歩いてくださると危険が避けられます。

本人の好きな遊びや得意なこと（屋内 / 屋外 / 注意・配慮点）

室内では、電車のおもちゃを走らせるのが好きです。レゴブロックも好きで、あれば自由に作ります。いろいろなものを作るのが得意です。

屋外では、ブランコがなにより好きです。

本人の嫌いな遊びや苦手なこと（屋内 / 屋外 / 注意・配慮点）

歌いながら同時に体を動かすようなことはうまくできません。でもその場を楽しむことはできます。

屋外では、追いかっこ（大好き）はできますが、鬼ごっこのようなルールのあるものは苦手です。

お金の管理

- お金の意味が分かっている お金の意味が分かっていない
- お金の管理ができる お金の管理ができない

何よりも優先してほしいような配慮について書いてください。

本人が安全に過ごすために、最低限これについては注意してほしい、ということを書きます。支援者に子どもを預けるときに、いちばん伝えたいことを具体的に書きましょう。

本人の好きな遊び、得意なことなどを書きます。支援者が本人とコミュニケーションを取るのに助けになりそうな遊びがあれば書いてください。

嫌いなことや、苦手なことについて書きます。うっかり支援者がそういうことに誘ってしまい、本人との関係が悪くならないように気をつけたいことを書いてください。

◆「本人ファイル③」の書き方

(20ページの様式ファイルをコピーして書き込んでください)

このファイルは、幼稚園、学校などの長期にわたって通い続ける場所や、サマーキャンプなどであらかじめ医療的な情報が必要な支援者に渡すためのものです。

<具体例>

様式 本人ファイル③ …… 場面に応じて提供するファイル

| | | | | |
|----------|-------------------|---|---|--|
| 本人の情報 | 診断名 | 自閉症 | | |
| | 本人の特徴 | いったんこうと決めたらルールはなかなか変えません。そのため頑固に見えることが多いです。また、いろいろなことを想像することが苦手で、言葉で説明されても十分に理解できていないことがあります。興味をもったことにはかなり熱中し、国旗はたいてい分かります。でも人と一緒にいることが大好きです。 | | |
| 服薬等 | 服薬 | てんかんの薬を飲んでいます | | |
| | 持病 | アトピー性皮膚炎 | | |
| | アレルギー | 鶏の卵でじんましんがでることがあります。そのため、卵の入ったお菓子は禁止しています。 | | |
| 診断・検査の記録 | 機関 | 実施時期(年齢) | 結果内容 | |
| | 〇〇〇センター | 4歳のとき | 言語性知能指数 67 動作性知能指数 83 全検査知能指数 75 発達指数 76 | |
| | △△△クリニック | 4歳のとき | 自閉症 (知的には境界線上) と診断された | |
| 療育手帳 | (無) ・ 有 (A B1 B2) | | | |

診断名は確定している場合のみでかまいません。

障害の一般的な特徴を書くよりも、むしろ本人の個性や性格を表すような書き方がよいでしょう。

服薬等の欄には、いつも飲んでいる薬について書きます。薬の内容が変わることもありますので、服薬をしているかどうかを書いておき、他に詳細に書いたものを用意したほうがよいでしょう。

他に身体面での病気やアレルギーがある場合には、避けてほしいことを目立つように書いておきましょう。

診断・検査時の記録の欄には、これまでに受けた診断や検査の実施機関、実施時期とその結果を記入してください。

診療機関が決まっている場合には、主治医に確認しておくのも一つの方法です。

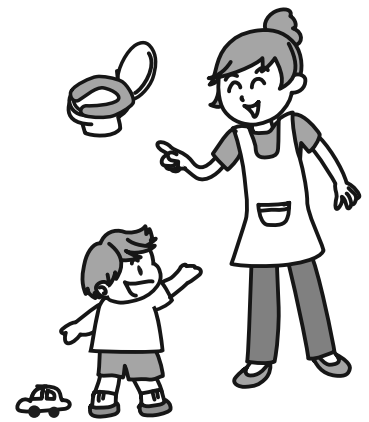
診断や検査の結果は、あいまいであることが少なくありませんが、分かる範囲で書いておきましょう。

◆「トイレ」項目の書き方

(21ページの様式ファイルをコピーして書き込んでください)

支援者が子どもを預かるときに、気になることの 하나가トイレに関することです。失敗を避けるために、普段のトイレのポイントを分かりやすく書いておきましょう。

- ①いつも決まった時間にしているのなら「何時にしています」
日課の中に組まれているのなら「昼ごはんの後にしています」
何かをきっかけにしているのなら「お茶を飲んだ後は行きます」など、
日ごろの習慣を書いておきましょう。
- ②決まった時間ではなく、本人からのトイレサインを頼りに
トイレをしているのなら、そのことを詳しく書きましょう。
- ③「洋式の便器ではできない」「エアータオルの音が嫌い」など、
トイレの際に困ることがあれば、それも書きましょう。
- ④一人でどこまでできるのか、どんな手助けが必要なのかを
具体的に書きましょう。



※まだトイレが確立しておらず、オムツを使っている場合は、そのことも書いておきましょう。

<具体例>

様式 一般様式

支援者：

場所：

日付：

| | |
|---|-------|
| < 項 目 > | ト イ レ |
| <本人の状況> <ul style="list-style-type: none"> ・まだ、トイレを誰かに訴えることはしません。 ・オシッコがしたくなると、そわそわしてズボンの中に手を入れようとしたりします。 ・ウンチは、いつも晩ごはんを食べた後にすることになっています。 | |
| <支援者に伝えたいこと> <ul style="list-style-type: none"> ・そわそわしてズボンの中に手を入れようとしたり、ズボンの上からおちんちんを触ろうとしていたら、トイレに連れて行ってください。 便器の前に立てば、自分でズボンを下ろしてオシッコができます。 ズボンをはき直すときには、手助けがいります | |

◆「パニック」項目の書き方

(21ページの様式ファイルをコピーして書き込んでください)

●パニックってどういうこと？

何らかの原因で気持ちが高ぶり、混乱のために状況が分からなくなってしまう、さらに自分の感情をうまくコントロールできなくなってしまう状態を、しばしば「パニック」と呼びます。

パニックは、本人の思いが伝わらず、コミュニケーションが上手にとれないときに起こることが多いようです。また、家族と離れていつもと違った環境になったときなどに、極度の不安から起きやすくなります。



●これまでパニックになったときの状況とその対応

保護者と離れて他人と過ごすとき、パニックになる事態をできるだけさけるためにも、これまでの経験をもとに、支援者に分かりやすく書いておきましょう。

- ☆どんなことをきっかけに起こりやすいか
- ☆パニックになったときに、具体的にどんな状態になるのか
- ☆こうしたら早く落ち着きました、という情報
- ☆どの程度の時間続くのか。目安となる時間が書いてあれば、支援者が対応しやすくなります。

<具体例>

様式 一般様式

支援者：

場所：

日付：

| < 項目 > | パ ニ ッ ク |
|---|---------|
| <p><本人の状況></p> <p>《本人がしたいと思っていることを妨げられたとき》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだ遊ぼうとしているときに、無理やりに終わらせようとされたときや、本人が使っているおもちゃを他のだれかに取られたときに、パニックを起こします。(大きな声で泣き叫ぶことが多いです) <p>《イヤなことをさせられようとしているとき》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行きたくない場所に無理に連れて行かれそうになったときにも、パニックを起こします。 <p>《怖いものや苦手なこと、嫌なものごとがあったとき》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イヌの鳴き声が苦手、イヌが近づくとパニックを起こします。 | |
| <p><支援者に伝えたいこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着くまでに、短いときで5分程度、長いと30分くらいかかることもあります。他人との関係で問題がなければ、そのまま知らん顔をしてください。過剰に反応すると、さらに大きなパニックを誘発することがあります。少し落ち着いたときに、大好きなトーマスの絵本を見せたりして、気分転換をはかるのが良い方法です。 | |

◆「コミュニケーションについて（本人→周囲の人）」項目の書き方

（22ページの様式ファイルをコピーして書き込んでください）

コミュニケーションの書き方については、普段の関わりの中でいつもしていることや、気づいたことを書きましょう。

また、あなたにしか分からない表現は、特に書いておきましょう。

<具体例>

様式 コミュニケーション（本人→周囲の人）

コミュニケーションについて 本人→周囲の人（表現手段）

表現手段 複数選択可（にチェックをしてください）

- 言葉で言う 1～2語程度で言う 意味のない声を出す
- 指差しをする 大人の手や服を引っ張る
- カードなどの道具を使う→（道具の種類：
- その他

<本人独特の表現法>

- ・欲しい物が本人の目の前にないときや、自分では届かない場所にあるときは、手を引いて連れて行きます。
- ・トイレに行きたいときは、股間が気になる様子で触ります。
- ・イヤなとき、例えば知らないところへ連れて行かれるときは、嫌がってしゃがみこんだりします。
どこへ行くのか簡潔にハッキリと「○○に行くよ」と言ってもらえると、行けます。
- ・注意を向けてほしいときには、手を握ってきます。

本人に特有の表現のしかた

言葉では言えなくても、そのしぐさで何かを伝えていることが分かっている場合、それを書いておいてもらおうと支援者は「ああ、そういうことなのか」と安心できます。

してほしいことがあるときの、本人の表現のしかた

「をしてほしいときには△△します」というように、他の人では分かりにくいことは書いておきましょう。

例：「立って両手を差し出す」というしぐさは、「手を取って一緒にぴよんぴよんジャンプしてほしい」という合図です。

例：おちんちんを触っていたら、オシッコがしたいというサインです。

◆「コミュニケーションについて（周囲の人→本人）」項目の書き方

(23ページの様式ファイルをコピーして書き込んでください)

<具体例>

様式 コミュニケーション（周囲の人→本人）

コミュニケーションについて周囲の人→本人（伝達手段）

伝達手段 複数選択可（□にチェックをしてください）

話し言葉で理解可 単語程度なら理解可指差しをする 文字で書くカードなどの道具を使う→（道具の種類：その他

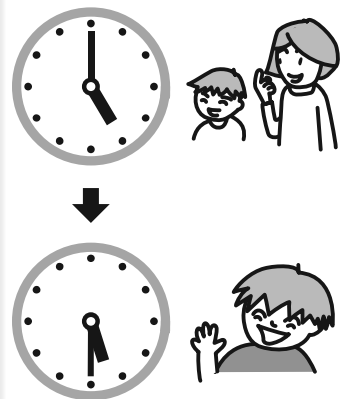
してほしいことがあるときの伝えかた

ふだんあなたが何げなくしているやり方を思い出してみても、どんな伝え方をしているか書いてみてください。

例：おもちゃの片付けは「おかたづけ〜♪」と言いながら片付けているところを見せませす／身振り手振りを多く使っています／してほしいことが分かるような関係の深いものを見せたり、指で示したりしています（例えば、室内で遊んでいて、帰るときになったらくつを見せる、など）。

<大人からの指示>

- ・してほしいことを伝えるとき、例えば遊びが終わって帰るときは、10分前くらいに大きい時計の針を示して「長い針が6のところに来たら帰るよ」などと、あらかじめ伝えてもらえると気持ちが切り替えやすいようです。
- ・してはいけないことを伝えるときには、本人の顔と目をこちらに向けて「だめ」と言うと分かります。
- ・大人の方に注意を向けさせるには、例えば何かを夢中でしているときは、急にやめさせるのではなく、少し様子を見てから名前を呼んで、身体の向きをこちらに向けさせてください



その他、コミュニケーション全般で気をつけてほしいこと

例：指示をするときは、目を見て言うと伝わりやすいです／言葉だけでなく、指差しやジェスチャーを示すと伝わりやすいです、など

■子どもに関わる機関からのメッセージ

兵庫県自閉症協会高機能ブロック 兵庫県高機能広汎性発達障害児・者・親の会 ピュアコスモ

ピュアコスモは兵庫県在住の高機能広汎性発達障害（高機能自閉症・アスペルガー症候群など）の子どもをもつ保護者と本人の会です。平成15年に発足し、神戸市を中心に活動しています。会員数は現在110名、兵庫県自閉症協会に所属し、平成16年度より高機能ブロックとして活動しています。

会の活動はホームページ (<http://purecosmo.com/>) でご覧いただけます。講演会・学習会・保護者用相談会・地区別交流会・本人活動（ボーリング・デイキャンプ・クリスマス会など）・15才以上当事者相談会など実施。サポートブックは本人活動などの際、ボランティアに保育をお願いするときに助かります。より繊細で敏感な子どもも多いので、一人ひとりの特徴を前もって知ることは、子どもたちの無用なイライラを少しでも減らすことに役立ちます。トラブルが少ないと子どもたちも安定し、穏やかに過ごせますので、支援者も保護者も安心～サポートブックは最強のアイテムです。

兵庫県LD親の会「たつの子」

LD・ADHD・アスペルガー症候群・高機能自閉症・広汎性発達障害・軽度知的障害など、発達障害の子どもをもつ親の会です。

平成2年に発会し、神戸市を中心に活動を始めました。現在では兵庫県下に約249名の会員がいます。診断の有無に関わらず、「情報がほしい」「勉強がしたい」など、一緒に活動しようと思う方ならどなたでも入会できます。

年6回の会報発行、講演会・勉強会のほかに地域でのブロック活動、子どもも参加する体操教室・算数教室などのサークル活動やレクリエーション活動、親同士の情報交換・懇親会などを行っています。（たつの子ホームページ <http://hyogotatsunoko.info/>）

サポートブックを記入することにより、親が子どもの特性をより理解し、分かりやすく表現する機会になるとともに、子どもに関わる支援者に理解してもらう近道にもなると思います。講演会の保育、サークル活動のサポート、運動会などのボランティアをお願いするときなど、親子が別々に活動するときに役立ちます。

YMCA

子どもにとって、家庭や学校、保育所、幼稚園だけでない関わりの場をもつことによって、子どもたちの新たな一面が見いだされ、更なる成長のきっかけが広がります。しかし、子どもにとってよりよく社会経験、生活経験を積むためには、子どもが自ら楽しいと思って参加していくことが大切です。そのために子ども一人ひとりに合った支援は欠かせないものです。

このサポートブックをきっかけに、家庭での子ども、地域社会での子どもの姿、子どもにとって必要なこと、求められていくことを、周りの方々とともに考えるきっかけをつくり、「子どもと若者のいのちが光り輝く」社会が実現することを願っています。

保育園・所

保育所が子どもにとって最もふさわしい生活の場になるためには、家庭との緊密な連携が必要です。そのためにも「こんなときこうしたらうまくいきます」「子どもが困ることはこんなことです」等、子どもへの支援の方法を保護者の方と十分に話し合い、連携をとるのが一番です。

サポートブックを通して、子どもについての必要な情報をしっかり効率的に得ることができ、保育所で子どもが安全に楽しく過ごし、スムーズに保育所生活の中に入れるようにできればと思います。人間形成にとって重要な幼少期に、保育所が保護者の方とともに子育てできる場でありたいと思います。

児童館

児童館は、地域の子ども（0歳～18歳）が自由にいつでも利用できる児童福祉施設であり、活動の中心は遊びです。児童館の職員は、子どもがさまざまな遊び体験を通して、心身ともに健やかに育っていくことを支援しています。「サポートブック」は、児童館を初めて利用する子どもを児童館職員が理解するのに、とても有効だと思っています。特に「学童保育クラブ」に登録する子どもにとっては、児童館が生活の場です。児童館は、「サポートブック」の情報を活かすことで、子どもにとって居心地の良い遊び環境を提供し、子どもの発達に応じたきめ細かい援助に努めます。

神戸市社会福祉協議会福祉活動部ボランティア情報センター

ボランティアに関する相談、情報提供の窓口であり、ボランティア保険などによりボランティア活動の支援等を行っています。また、各区社会福祉協議会内に設置されているボランティアセンターと協働し、市内のボランティア活動の振興も図っています。ボランティアの依頼内容はさまざまですが、子育て支援に関する依頼も年々増加しています。

サポートブックを利用することによって、ボランティアは安全に楽しく子どもと過ごす時間をもつことができ、保護者とボランティアの気持ちが寄り添った活動につながると思います。

神戸市ファミリー・サポート・センター

当センターは、子育て中の人仕事や急な用事などで子どもの世話ができないときに、一時的・臨時的に地域の人が応援する、会員同士の相互援助活動を支援しています。依頼会員は市内在住か在勤で、おおむね、生後3ヶ月から小学3年生までの子どもをお持ちの方です。単発の依頼から数年にわたる息の長い活動まで、温かいサポートが日々行われています。

サポートブックを利用することで、支援者が子どもの様子をよりよく理解すれば、子どもも安心して過ごすことができます。また保護者も預かってもらう上で必要なことを伝えやすくなり、お互いが気持ちを共有する助けになることと思います。

公立学校園

1日の約1/3の時間を過ごす学校園での生活は、子どもにとっていろいろな意味で多くの学習をする場所となります。また、今まで経験をしたことのない集団生活の始まりでもあります。そこで、できるだけ良い経験をするように、家庭との連携は大切です。

その際、対人関係やコミュニケーションの基礎を築く学校園での生活が有意義なものになるように、子どもの支援について、保護者と一緒に話し合っていきたいと考えています。そのツールとして、サポートブックを活用していきたいと思っています。

＜神戸市サポートブック作成検討委員会名簿＞

委員長 神戸大学教授 医学部保健学科 高田 哲 (平成 19 年度)

委員 兵庫県自閉症協会高機能ブロック
兵庫県高機能広汎性発達障害児・者・親の会 ピュアコスモ 代表 久村 恵美

兵庫県 LD 親の会「たつの子」副代表 清水 政子

神戸 YMCA 西宮ブランチ ディレクター 谷川 尚

青谷愛児園園長／私立保育園連盟代表 松村 恭子

神戸市保健福祉局子育て支援部主査／公立保育所代表 藤原 裕子

同朋学園園長／児童養護施設連盟代表 安田 信吉

神戸市総合児童センター 主幹／児童館代表 向井 真千子

神戸市社会福祉協議会福祉活動部ボランティア情報センター 名口 麻里子

神戸市社会福祉協議会神戸市ファミリー・サポート・センター 木場 桂子

神戸市北区保健福祉部子育て支援担当主幹／区保健福祉部子育て支援係代表 山岡 明子

神戸市垂水区保健福祉部子育て支援係／区保健福祉部子育て支援係代表 菅 澄子

神戸市教育委員会特別支援教育課推進係長 原 秀樹

神戸市教育委員会特別支援教育課指導主事 竹内 寛子

事務局 神戸市保健福祉局こども家庭センター発達障害ネットワーク推進室長 常深 幸子

神戸市保健福祉局こども家庭センター
発達障害ネットワーク推進室事業推進係長 福永 勝

神戸市保健福祉局こども家庭センター
発達障害ネットワーク推進室事業推進係 藤 美和子

(福) 三田谷治療教育院 治療教育室／
発達障害ネットワーク推進室スーパーバイザー 河井 悦子

(福) 三田谷治療教育院 治療教育室／
発達障害ネットワーク推進室スーパーバイザー 吉川 正勝

※この冊子は、厚生労働科学研究 子ども家庭総合研究事業「保健師・保育士による発達障害児への早期発見・対応システムの開発」に協力して作成しました。

※委員の肩書きは、平成 19 年度当時のものであり、現在のものとは異なっておりますが、ご了承ください。

様式

本人ファイル① …… 個人情報に関するファイル

平成 年 月 日 作成

| | | | |
|-------|--|-------|-----|
| ふりがな | | 年 齡 | 性 別 |
| 名 前 | | 歳 | 男・女 |
| | | 生年月日 | |
| 呼 び 名 | | 年 月 日 | 生 |

写 真

| | |
|-----|--|
| 住 所 | |
|-----|--|

| | | | | | |
|-----|-------------|--|--------|--|----------|
| 電 話 | 第1順位 氏 名 | | 本人との関係 | | 番号 () - |
| | 第2順位 氏 名 | | 本人との関係 | | 番号 () - |
| | 第3順位 氏 名 | | 本人との関係 | | 番号 () - |

| | | | | | | |
|-------|-------|---|---|---|-----|-------|
| 園 学 校 | 園・学校名 | | | | | |
| | 学 年 | 年 | 組 | 組 | 担 任 | |
| | 住 所 | | | | 電 話 | () - |

様式

本人ファイル② …… すべての場面で必要な基本ファイル

| |
|--|
| 特に配慮のいる状況と、その対応 |
| |
| 本人の好きな遊びや得意なこと（屋内 / 屋外 / 注意・配慮点） |
| |
| 本人の嫌いな遊びや苦手なこと（屋内 / 屋外 / 注意・配慮点） |
| |
| お金の管理 |
| <input type="checkbox"/> お金の意味が分かっている <input type="checkbox"/> お金の意味が分かっていない <input type="checkbox"/> お金の管理ができる <input type="checkbox"/> お金の管理ができない |

様式 本人ファイル③ …… 場面に応じて提供するファイル

| | | |
|-----------|-------|--|
| 本人の 情報 | 診断名 | |
| | 本人の特徴 | |

| | | |
|-----|-------|--|
| 服薬等 | 服薬 | |
| | 持病 | |
| | アレルギー | |

| 診断・ 検査の 記録 | 機 関 | 実施時期 (年齢) | 結果内容 |
|------------------|-----|-----------|------|
| | | | |
| | | | |

| | | |
|------|-------|-------------|
| 療育手帳 | 無 ・ 有 | (A B1 B2) |
|------|-------|-------------|

様式

一般様式

支援者：

場所：

日付：

< 項 目 >

< 本人の状況 >

< 支援者に伝えたいこと >

様式
編

様式 コミュニケーション (本人→周囲の人)

コミュニケーションについて 本人→周囲の人 (表現手段)

表現手段 複数選択可 (□にチェックをしてください)

言葉で言う 1～2語文程度で言う 意味のない声を出す

指差しをする 大人の手や服を引っ張る

カードなどの道具を使う→ (道具の種類：)

その他 {

<本人独特の表現法>

様式 コミュニケーション（周囲の人→本人）

コミュニケーションについて 周囲の人→本人（伝達手段）

伝達手段 複数選択可（□にチェックをしてください）

話し言葉で理解可 単語程度なら理解可

指差しをする 文字で書く

カードなどの道具を使う→（道具の種類： _____ ）

その他 { _____ }

<大人からの指示>



発行：神戸市保健福祉局発達障害者支援センター

発行日：平成 29 年 8 月

神戸市広報印刷物登録 平成 29 年度 第 205 号（広報印刷物規格 A-2 類）

リサイクル適性[®](A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。